

赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下で始まった赤いベンチの設置を広げる活動。高齢者にいつまでも元気でいてほしいと願いを込めて始めた取り組みが様々な効果を生んでいます。

買い物支援・介護予防・新たなコミュニティ・防犯・相談窓口の周知
たくさんの効果をもたらす

大阪市城東区関目校下



赤いベンチプロジェクト

大阪市城東区関目校下。人口はおよそ9300人。昔ながらの長屋、集合住宅、新築のマンション、警察学校等、区画整備されたエリアに建物が密集し、地域の中心には公園があります。昔懐かしさと新しさが共存する地域で、赤いベンチを設置する取り組みが始まりました。

きっかけは…骨折？

発案者は民生委員や町会長として活動する岡本さん。ある日、足を骨折し、外出に苦労しました。「足の不自由な方や体力が低下してくる高齢者はこんな大変な思いをしているのか…」と実感。地域の中にベンチがあれば、助かる人が増えるのではないかと思い、関目地域活動協議会会長の十亀さんや、地域で高齢者支援をおこなう地域福祉支援員の木原さんに相談しました。

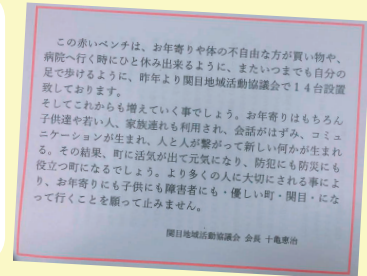


ベンチには地域包括支援センターのステッカー

地域内にスーパーは1か所。

スーパーに行くことをあきらめて宅配や配食サービスを利用する高齢者が増えてきていました。外に出る機会が少なくなったら体力も気力も落ちる。自分の足で買い物に行くこと・外出することは生活のハリにもなる！誰かが座ることで防犯の効果もあるベンチの設置は最適かもしれない！

さまざまな効果を確認し、地域住民の賛同を得て、地域を挙げての取り組みに発展していくこととなりました。



地域の役に立つなら！
みんなでやろう

※製作費用には
区社会福祉協議会の
善意銀行助成金を活用

ベンチはすべて地域の男性の手作り

設計から、材料調達、製作まで、すべて関目校下の男性陣が中心におこなっています。大工さんを中心にみんなで協働し、一つ一つ製作しています。

買い物途中の高齢者、
学校帰りの子どもたち、
お昼休憩中のサラリーマン、
いろんな世代の方が
座り交流の場に

これからも
関目で元気に
暮らそうな～

できることをサポートする仕組み

取り組みをサポートする木原さんは「何かをしてあげよう、用意しようとするのではなく、本人が自分の力でできることをサポートすることが大切。」と語ります。「できなくなったからすぐに便利なサービスを利用する」ではなく、「どんなサポートがあれば今まで通りの暮らしが続けられるか」。赤いベンチプロジェクトは、本人の強みに視点をあてた取り組みです。

2019年5月現在、ベンチの数は18箇所。地域の強みを存分に生かし、おもしろいの輪が広がっています。



百歳体操終わりに団らん

